

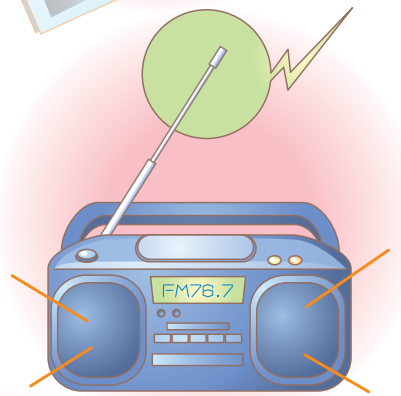
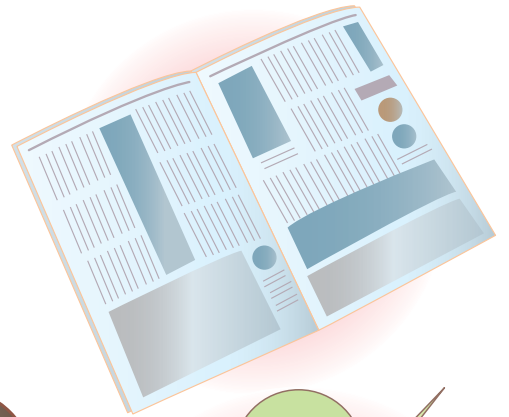
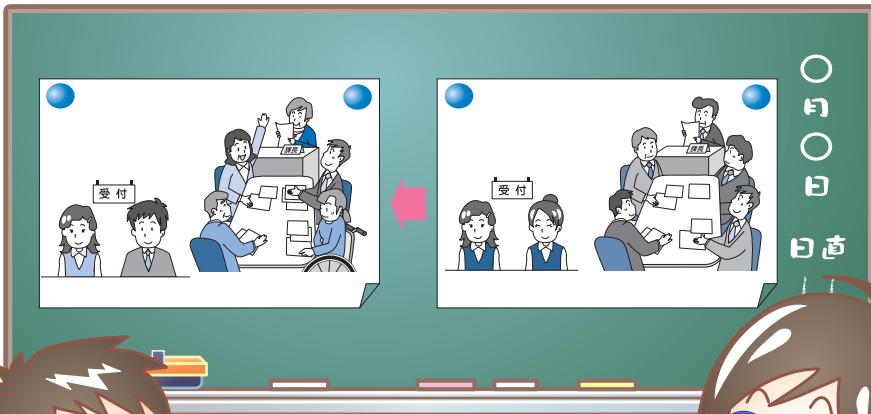
あなたはどう見る!? 身近なメディア

今日から変わる テレビの見方!

—情報を読み解く力を身に付けよう—

朝霞市男女平等推進情報紙

No.25
よかぜ
2010.9月号



もくじ

特集 あなたはどう見る!? 身近なメディア
今日から変わるテレビの見方!
—情報を読み解く力を身に付けよう—

最近考えたこと

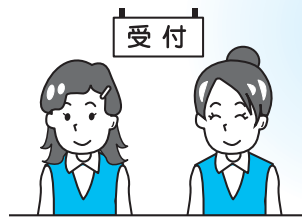
BOOKコーナー

朝霞市女性総合相談

いろいろ情報

はじめまして「そよかぜ」企画・編集委員です
編集後記

【目出亜先生(新聞部顧問)】
 今日、新聞部のみならず、身に付けてもらいたい。「情報を読み解く力」について一緒に考えていきたいと思います。突然ですが、このイラストを見て、感じたことや変だなと思ったことを発表してください。



【Bさん 中学2年生】
 普通の会社の様子だと思いました。

【Cさん 中学1年生】
 私そっと思えます。

【Dさん 中学1年生】
 手前から奥に向かって、社員の年齢が高くなっている。

【Eさん 中学1年生】
 女性は若い人しかいない。私の母は事務の仕事をしています。よく見ると母と同じ年代の女性が一人もいません。

メディアリテラシーとは…

どうもありがとうございます。実はこれ、ある会社の社員募集のちらしに描かれていたイラストで、20数年前に制作されたものです。「普通の会社の様子」という意見には少し驚きました。でも、意見がだんだん出てきましたね。

みなさん「メディアリテラシー」という言葉を知っていますか？



はい、聞いて言葉です。

メディアリテラシーとは「メディア(*1)から発信される情報を読み解き、活用する能力」のことを言います。分かりやすいテレビを取り上げて、メディアリテラシーについて考えましょう。

作り手が選んで情報を発信

情報を読み解くといっても、テレビからの情報って、事実ですよ。映像もあるし。

そうですね。しかし、世の中で起っていることをすべて発信することはできません。ですから、放送される情報は、選ばれたものなの

あなたはどう見る!? 身近なメディア

今日から変わるテレビの見方!

— 情報を読み解く力を身に付けよう —

あさか中学校新聞部顧問の目出亜先生と部員のみんながメディアの見方について、話し合っています。



です。

ということは、そこには何らかの基準で情報を選んでいる「作り手」がいるということですね。

テレビだけでなくメディアから発信される情報は、制作側の意図や価値観が反映されているということを意識しましょう。

それが、メディアリテラシーを身に付ける(*2)第一歩です。また、先ほど少し意見を出し合ってもらったように、ニュースやコマーシャルなどを取り上げて、友達や家族と意見交換してみよう。いろんな見方や意見があることが分かってきますよ。

なんとなく分かってきました。私たちが学校新聞を作る時、例えば、体育祭が盛り上がった部分を取り上げて

記事にすることに似ていますね。

私は体育祭実行委員のみんなが、がんばっている姿を取り上げたかったのです。

学校新聞の読者はごちらの様子も知っているけど、テレビは放映された情報以外のことばかりじゃない。

事実と違うわけではないですが、作り手などの場面で、情報が変わってしまうこともあります。

このようなことを理解し、自分に必要な情報かどうかを読み取ったり、分析したりしながら判断することが大切です。

メディアが将来にも影響

ところで、みなさんは将来どのような職業に付きたいと思っていますか？ その理由も教えてください。

まだ、あまり将来について考えていないけど、思っていたのが、テレビの番組を作る放送作家です。バラエティ番組で「放送作家はもうかる」と言っていたからです。

私は、新聞記者になりたいです。文章を書くのがとても好きなので。でも、子どもができたらず業主婦になって子育てに専念したい。コマーシャルに出てくる幸せそうな親子が目標です。

僕は、警察官です。ドラマや映画の中で、事件を解決していく姿がかっこいいし、人のためになって感謝される職業だと思ったからです。

職業を選択した理由を聞いてみると、メディアからの影響をとても受けているように感じました。

それだけ、メディアの影響は大きいということですね。

今は、目まぐるしく社会の状況が変化し、多様な生き方が求められる時代です。

そのため、情報を発信する側も、性別や障がいの有無、国籍によって、生き方や役割が固定されないよう、また、暴力を助長しないよう表現等に配慮する自主的基準などを設けています。

しかし、まだまだ作り手の固定的な役割を求める価値観や思い込みが反映されていたり、暴力的な表現が使われていたりします。そういった情報をうのみにして振り回されることなく、自分らしい生き方を選択していくためにも、メディアリテラシーをぜひ身に付けてほしいと思います。そして、みなさんは学校新聞というメディアの作り手でもあります。

先ほどのイラスト、みなさんだったら、どのように表現しますが、やってみましょう!

みんなが意見を出し合いイラストを完成させました!

女性の課長がもっと増えるといいな。

性別や障がいの有無に関係なくイキイキとした職場で働きたいな。

受付は男性と女性にしました。



(*1) メディア… ここでは、テレビや新聞、雑誌、インターネットなど情報を発信する媒体のことを指しています。

(*2) メディアリテラシーを身に付けるために…

1. 情報が「事実」なのか「解釈」や「意見」なのかを考える。
2. 友達や家族と意見交換し、いろんな考え方があることを知る。
3. 社会的に作られた性別に捉われない視点を持つ。
4. なんらかの意図があることを意識する。
5. 他のメディアの情報と比べる。



「固定観念!？」

それとも…!？」

先日、街のイベントをお手伝いした際に、感じ、考えたことがありました。猛暑で汗だく!そんな中、楽しげな子どもたちの姿にパワーをもらい「よしやるぞ!」と張り切ったその矢先: 「これ来場者に配ってね」と、リーダー格の男性から頼まれました。当然、

みんなで手分けをして啓発物を配布しようとしたところ、次に、その男性から出た言葉は「女性から渡してもらった方がいいよね」。他の男性も「そうそう、こういうのは若い女性がやった方がいいよ!女性で手分けしてやってね」。それに対して、私は一応笑顔を

作り、対応をしました。

ここまで読んでいただいで、皆さんは何か感じられましたか?私は感じません。疑問を持ってしまったんです。年齢、性別を問わずにみんな協力をしやれないのだろうか…。もちろんその作業が嫌だったというわけではないのです。

どうして「若い女性が〇〇した方がいい」という考えが定着してしまったのか。そして、それは一部の人の固定観念ということでもまとめてしまっているのか疑問に思いました。

さすがに、「先ほどはありがとう。助かったよ」と言われると嫌な気持ちはいらないです。「いえいえ、お役に立ってよかったです」なんて発言をしましう自分が存在することに、人間の曖昧さを感じた一日でした。



「体を温める」と病気は必ず治る

体を温めると病気は必ず治る



石原結實 著

- あなたは、こんなことやっていますか?
- ペットボトルの飲み物をよく飲んでる?
- 風呂は、冬場以外はシャワーですませることが多い…など

石原結實 著 (三笠書房) 1,300円+税

皆さんの平熱は何度ですか?私たちの体は、36.5℃~37.0℃の体温で最もよく働くようにできています。新生児が、「赤ちゃん」と言われるのは、赤い=体温が高いから。一方、年を取ると白髪など、「白ちゃん」ともいふべき“冷え”から起こる“老化現象”が表れます。キーワードは“赤と白”つまり、温かさです。あらゆる病気はこの“体温低下”によって引き起こされるのです。

体温を上げて、元気になりましょう!

悩める女性のために 朝霞市女性総合相談

家族間のもめごとや対人関係の悩み、暴力や虐待、離婚問題などあなたの悩みや問題などに対して経験豊かな専門家がご相談をお受けします。

- ◆ 個人の秘密は守ります。
- ◆ 相談は無料です。

相談日 毎週木曜日 (祝・休日にあたる場合は前日)

時間 午前10時~午後3時

場所 市役所1階 市民相談室

問合せ 人権庶務課男女平等推進係

電話 048-463-2697 (直通)

編集後記

自分らしく生きる…あなたはあなたらしく生きてほしい: 出来ることを出来る人が: そんなことを学びました。(りんどう)

初めて聞く、「メディアリテラシー」という言葉に違和感を覚えました。編集に携わり、奥深い世界に感じました。(秋桜)

編集に携わって、自分の生活で、言葉遣いなどがすこく気になるようになりました。(ばんだ)

テレビなどの情報をうのみにして振り回されないよう、自分自身で気を付けます。(福)

「そよかぜ」 企画・編集委員です。

委員4名が、今年度新たに歩きはじめました。男女が平等な社会をめざし、市民の皆さまに手に取っていただける情報紙をお届けしていきたいと思っております。意見交換を重ね、楽しく企画・編集しています。皆さまのご意見、お待ちしております。



近藤愛子 中村徳子 山門千佳 渡邊綾

いろいろ情報

平成22年度

あさがせと男セミナーを7月に開催しました!

連続講座「あさがせと男セミナー」を産業文化センターにて開催しました。今年度は、メディアリテラシーやDVについて学び、昨年、大好評だったアサーティブトレーニングも取り入れました。お互いを認め合いながら一人ひとりがいきいきと生きていくことについて考えるセミナーとなりました。



また、今年度は50名の申込みがあり、大盛況でした。

~互いを認め合い 尊重し合う社会とは~

回	テーマ	講師
1	今日から変わるテレビの見方 —すべて鵜呑みにしていませんか?—	東海大学文学部 広報メディア学科専任准教授 谷岡 理香さん
2	チャレンジ!! 人生はいつからでもキャリアup —専業主婦から大学教授へ—	東京女子大学 現代教養学部教授 国広 陽子さん
3	えっ!?こんなこともDVなの?? —身近に潜む暴力—	湘南DVサポート センター理事長 瀧田 信之さん
4	私のキモチ率直に伝えよう①	アサーティブ ジャパン
5	私のキモチ率直に伝えよう②	牛島 のり子さん